

第1日 6月2日(土)

午前の部

研究発表(研究発表30分 質疑応答15分)

- ① 北郷 彩(北海道大学大学院) (9:30—10:15)
アリストテレスにおける「述語の種類」(範疇)の基礎としての
プレディカピリア
- ② 長谷川 敬(東京大学大学院) (10:20—11:05)
帝政ローマ前期ガリア・イタリア間の水上交易にみる人的紐帯
—二人の河川・海運従事者を手掛かりに—
- ③ 中谷彩一郎(京都大学研修員) (11:10—11:55)
アキレウス・タテオスが輝いた頃:十七世紀前半のパリを中心に

午後の部

- ④ 足立広明(奈良大学準教授) (1:15—2:00)
女性聖人伝と言語論的転回
—古代末期における女性イメージとリアリティの関係性について—
- ⑤ 米澤 茂(筑波大学教授) (2:05—2:50)
ソクラテスの「正義の原理」

シンポジウム「セネカとその時代」(3:00—6:00)

※懇親会(6:30—8:30)

於 南青山会館(農林水産省共済組合 03-3406-1365)

(会費 5000円 学部・大学院生 3000円)

(付記 委員会は6月1日午後5時より、
総研ビル3階第11会議室にて開催いたします)

第2日 6月3日(日)

午前の部

研究発表

- ⑥ 内林謙介(名古屋大学大学院) (9:30—10:15)
プルタルコス『対比列伝』と英雄伝承
—『テミストクレス・カミルス伝』の統一的解釈の試み—
- ⑦ 庄子大亮(関西大学非常勤講師) (10:20—11:05)
アトランティス物語の意味
—ポリスにおける神話の機能という視点から—

※総会(10:05—11:35)

- ⑧ 脇條靖弘(山口大学教授) (11:40—12:25)
未来判断と相対主義—プラトン『テアイテトス』178a-179bの意義

※書評委員会

午後の部

- ⑨ 秋山 学(筑波大学助教授) (2:00—2:45)
『アエネイス』におけるアスカニウス像の意味
- ⑩ 上野愼也 (2:50—3:35)
πέρσβεις αὐτοκράτορες 考
- ⑪ 三浦 洋(北海道情報大学助教授) (3:40—4:25)
アリストテレス『自然学』第II巻第9章における「必然性」の再検討
- ⑫ 逸身喜一郎(東京大学教授) (4:30—5:15)
教訓詩人個々人の系譜的自己規定、ないしジャンル意識

※編集委員会(5:25—7:30) 総研ビル10階第17会議室